

第3学年 特別活動学習指導案

1. 主題名 多文化共生について考えよう
2. ねらい パキスタンから転校してきた同級生（Mさん）から、パキスタンという国についてや日本での生活で感じたことについてまとめた発表を聞き、外国にルーツをもつ人とよりよい関係を築いていくことについて考える。
3. 資料名 『ようこそ多国籍商店街へ 多様性でシャッター通りを救え！』（ビデオ）
（NNN ドキュメント 日本テレビ 2023. 1. 8）

4. 主題設定の理由

1月半ばにパキスタンから転校してきたMさんと過ごして約半年となり、生徒たちにとっても、日常生活の中でMさんと話すために英語を使うや、給食のメニューでイスラム教徒のMさんのために除去しなければいけないものがあることが当たり前になりつつある。ただ、Mさんと積極的にコミュニケーションをとることができる生徒の数は、まだ限られており、Mさんが抱える困り感についても、理解の及んでいない生徒が多い。

外国にルーツをもつ同級生と過ごす時間を貴重な学びの機会と捉え、互いにより良い関係を築くために、改めてMさんへの理解を深めて具体的な行動を起こせるように、また、将来に渡って多文化共生の視点をもち続けられるように、生徒一人ひとりに考えさせていきたい。

5. 指導計画（全2時間）

第1次 ビデオ視聴とスライド作成（1時間）

ビデオ『ようこそ多国籍商店街へ 多様性でシャッター通りを救え！』を視聴させたのち、班ごとに、自分たちが「これからできること、していきたいこと」について考えたことをまとめたスライドを作成し、発表できるよう練習させる。

一方、Mさんには、パキスタンという国についてと日本での暮らしで感じたことについて、同級生に伝えるスライドを作成させる。日本語学習の一環として日本語で作成し、日本語で発表できるように練習させる。

第2次 Mさんの発表と各班の発表（1時間）

Mさんの発表を聞いたあと、各班の発表が事前学習で学んだことや考えたことを発表して交流し、最後に感想を書いて自分の考えをまとめる。

6. 本時の展開（第2時／全2時間）

(1) 目標 多文化共生について考えよう

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	評価とその方法
1. 目標を確認する	時間をかけない。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">多文化共生について考えよう</div>		
2. Mさんによるスライドを使った、パキスタンについて、日本での生活で感じたことについての発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mさんが懸命に日本語を使い、伝える姿と内容が最大限、他の生徒たちに伝わるよう、Mさんが日本語につまった際には、支援をする。 ・ 発表後、Mさんが転校してきた当初の、歓迎する気持ちに満ちた生徒たちの行動を思い起こさせ、Mさんがスライドを作るために、どれだけの時間をかけて努力したかについても語って、発表の背景にも思いを至らせる。 	
3. 各班からの、多文化共生について、自分たちが「これからできること、していきたいこと」についてまとめたスライドの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・ Mさんにも内容が伝わるように支援する。 ・ キーワードなど、メモをとりながら聞き、他班の発表で自分の考えが深められるよう促す。 	
4. 感想を書く	<ul style="list-style-type: none"> ・ たっぷり時間をとる。 ・ 多文化共生について身近な問題として感じたことや、これからしていきたいこと、Mさんへの思いなどが素直に綴れるよう声かけする。 ・ 時間があれば、感想の発表を促し、考えを深めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒たちのつぶやきを丁寧に聞く。 ・ 感想を読み、Mさんを含む、外国にルーツをもつ人へ理解を深めたり支援したりすることについて、これから自分がしていきたいことを書いていることを評価する。

多文化共生について考えることができたと思う。今まであまり身近なものではなかったが、Mさんが深く考えるきっかけになったと思う。今後も受け入れることができるような雰囲気を作ってくれるように、3年生を中心に取組を進めていきたい。

頭で分かっているけど理解が難しい。行動が伴わないことが、多文化共生という視点でなくとも人権感覚を養っていく必要があると感じます。知識だけでなく、相手を思いやる行動とはどうすることなのか、これを機に子どもたちと共に考えていきたいと思いました。

いよいよ2学期の足音が聞こえてくるような気がしました。アンケート分析を改めて見て、2学期の授業を考えていきたいと思います。「人の役に立ちたい」の高いポイントを、人の理解、実際の行動につながっていくような取組を展開していきたいと思いました。

多文化共生について、これまでしっかりと学んだことがありませんでしたが、今の自分にとってとても大切な内容だと思いました。継続的に取り組んでいきたいと思います。正解が分からないことなので、迷うことがたくさんあると思いますが、今回のように一つの例を見せていただいたことで、私にもできることをしようと思えました。学年や学校で取り組めたらとも思います。

固定化された人間関係の中で育ってきているため、自尊感情を高く持ってもよいような生徒も、自分の思う自分ができてしまい、低いのではないかという話になりました。体験を通じて自分自身を新たに発見することができるのではないかと思います。自分が担当する授業の指導計画にも取り入れたいと思います。

データから見えること、課題から、生徒たちを含めて私たちが何をすべきなのか考えることができました。学年のカラーはありますが、青垣中のめざす人権教育を明確にして全体に取り組み、無知から深く考え、気付くことができる生徒と教職員になっていけたらと思います。学校全体で頑張りたいですね。私も学び続けたいと思います。職員室で、自然に人権について語れるといいと思います。

時間を取って学年で分析したり、意見交流したりできたので良かった。また、各学年の分析を共有できたうえで2学期を迎えられる状況にあるので、今後の取組につながると思った。酒井先生の講演は別として、計画的に取組が進められているので、2学期以降もスムーズに事が進んでいくと思われる。研推担当の先生には負担をかけることになるが、今後も定期的に委員会を開催したり、研修会を開催したりできれば、より充実した研修になっていくと思う。

全体で方向性を確実に共通理解していくためのよい機会であった。また、今年度と昨年度と共通しているところをきちんと把握し、良いところは継続して取り組み続けていこうとする意識は、研究を点としてとらえるのではなく線として捉えられている証であり、良いことだと思った。各教科の授業はもちろん、学校生活全体を通して、研究目標達成に向けて取り組んでいきたい。